

■（２３２）５年９カ月を経て見つかった遺骨、一方で……

東日本大震災から５年９カ月を経て、福島県大熊町で行方不明だった女児の遺骨が見つかった。原発事故の影響で、大規模な捜索ができなかった地域。遠くに避難した家族は通いながら捜し続けてきた。手伝ってくれた作業員がてがかりを見つけたという。

いまだ１１２３人が行方不明の岩手県でも、警察や海上保安庁が捜索を続ける。ただ、震災から時間がたつにつれ、新たなてがかりはなかなか見つからない。一方、県内で見つかった遺体のうち５８人が、今も誰だかわからないまま、身元不明の遺骨として各地の寺院に預けられている。行方不明者の歯形との照合や家族を捜している人とのＤＮＡ型鑑定をやっても、今年になって身元が判明したのは１人だけだ。家族全員が犠牲になって誰も捜す人がいないのか、と勝手に想像してしまう。そんな中、ようやく身元が判明した遺骨を、さまざまな事情から親族らが引き取らないケースもあった。

新年で震災から６年。仏教で言えば、７回忌の節目だ。行方不明者や身元不明の遺骨も含めて、区切りとなるのか。それぞれの心の問題だけに簡単にはいかないだろう。（山）